

3 山崎家墓所

- 寛永19年(1642) 山崎家治、丸亀に入部
- 20年 丸亀城築城
- (生駒家の丸亀城は元和元年の武家諸法度により廃城)
- 明暦3年(1657) 3代藩主治頼、八歳で江戸に没し、嗣子なく断絶
- 寿覚院、弥谷寺、善通寺市智光寺、豊浜町墓地、大徳寺瑞光院、江戸青松寺、高野山竜泉院などに山崎氏関連の墓があるとされる(県史。豊浜町説は町史では否定。竜泉院も様相不明)

2018/8/15

21

寿覚院(丸亀市)

- 1641年(寛永18年)山崎家治が菩提寺として建立
- 藩主菩提寺(龍徳寺)と妻室菩提寺(寿覚院)(市史)
- 観音堂は江戸初期の建築で、背後にあった位牌堂の礼堂(市史)
- 市指定文化財



2018/8/15

22

智光寺墓所(善通寺市)

- 延享2年(1745)に丸亀法音寺にあった智光院殿の墓誌を移し、合わせて3間×2間の本堂を移築した。移転に際して寿覚院に相談(西讃府誌)
- 山崎家治室智光院墓(五輪塔)
- 承応2年(1653)3月建立



2018/8/15

23

弥谷寺(三豊市)

- 境内に墓域と墓標
- 山崎俊家(2代藩主、慶安4年1651)、俊家祖母(寛永14年1637)、俊家殉死者墓(慶安4年)(町史)
- 山崎家は寺への信仰が厚かったためか(町史)
- 俊家は丸亀で没したものの、京都瑞光院の一族墓所が本墓で、弥谷寺や高野山は供養塔か?
- 高野山竜泉院にも供養塔が存在(町史)

2018/8/15

24



- 3基だけの墓石が独立し、基壇上に置かれる
- 中央が2代藩主俊家
- 丸亀から離れており、本墓とは考えにくい

2018/8/15

瑞光院墓所(京都)

- 大徳寺塔頭
- 山崎家治の先代家盛が開いた寺院。寺号は家盛の戒名による
- 明治時代に墓所は大徳寺黄梅院に移転(瑞光院自体は宇治へ移転)
- 墓所には片家(家盛先代)、家盛、家治、家治娘、俊家(治)、治頼、治頼実母等の墓10基が現存する。形態は五輪塔や板碑、円塔とされている(生駒・山崎・京極史談)
- 家盛は若狭龍徳寺に遺髪塔があり、瑞光院墓所が本墓とされる
- 家治も瑞光院が本墓とされる

2018/8/15

26

青松寺墓所(港区)

- 江戸における菩提寺
- 太田道灌が開基、慶長5年(1600)現在地に移転
- 治頼が葬られている
- 20家(成羽山崎家を含む)の大名墓があったが、関東大震災後の昭和初年の都市区画整理のため、墓地縮小改葬工事が行われた。山崎家は無縁供養塔に合葬された

2018/8/15

27

山崎家墓所の特徴

- 治国15年で支配を示すものが殆ど残されなかった
- 讃岐には菩提寺もあるが、墓所は形成されなかった
- 西讃支配における弥谷寺保護の継承
- 瑞光院墓所の五輪塔を中心とする墓形の多様性(大名家墓所として未完成)

2018/8/15

28

4 京極家墓所

- 万治元年(1658) 京極高和、丸亀に入部
- 寛文10年(1670)ごろ 丸亀城完成
- 元禄7年(1694) 多度津藩創設
- 慶応4年(1868) 7代藩主朗徹(あきゆき) 幕末を迎える
- 墓所 玄要寺、宗泉寺(以上丸亀市)、徳源院清滝寺(米原市)、龍光寺(文京区)、光林寺(港区)、高野山
- 弥谷寺に元禄17年の供養塔(高豊の寺領寄進、町史)

2018/8/15

29

玄要寺墓所(丸亀市)



- 領地替えと共に、菩提寺として若狭、出雲、播磨、讃岐と移転
- 初代高和の先代忠高の戒名
- 丸亀藩6代藩主高朗墓所(丸亀市指定史跡)、多度津藩2代藩主高慶、同5代高琢の墓
- 京極高朗。藩主家が廃藩置県で東京に移住した際に丸亀に残り、明治7年(1874)没。
- 清滝寺に供養塔(生駒・山崎・京極史談)

2018/8/15

30

京極高朗墓

- 土堀(南北約9m×東西約20m)で1基のみの墓域を区切る
- 石垣を築いて玉垣を設けた中に「従五位京極高朗之墓」と刻まれた墓碑
- 墓碑基礎はわずかな高まりとなり、かつては土饅頭だったか
- 墓碑の前には家紋(四ツ目結紋)付きの灯籠や鳥居
- 鳥居(明治元年の神仏分離令により神式での埋葬)



2018/8/15

31

多度津藩2代高慶(たかよし)、5代高琢(たかてる)墓

- 本墓の可能性が高いが、高朗墓に合わせ、整備した可能性もある
- 傘塔婆型。同一規格。間にある一族墓とは格差(規模、柵門有無)



2018/8/15



32

宗泉寺墓所(丸亀市)

- 玉泉院(高和実母、左側の塔)の遺命により火葬、遺骨を埋葬
- 歌覚院墓(高豊実母、右側)
- 芳泉院(多度津初代藩主高通実母)
- 信仰による墓所選定か



2018/8/15

33

清滝(せいりゅう)寺墓所(国史跡、米原市)

- 清滝寺徳源院(清滝寺:京極家初代氏信戒名、徳源院:初代藩主高和戒名)
- 鎌倉時代に佐々木氏居館であったが、京極家初代氏信が居館を移し、跡を菩提寺とした。
- 高次(高和先々代)が荒廃した清滝寺を整備(中井均)
- 2代藩主高豊が散在した累代の墓を集め整備
- 当主、藩主及び早世した世子の墓のみ
- 丸亀藩、多度津藩とも最後の藩主墓はない(共に光林寺)



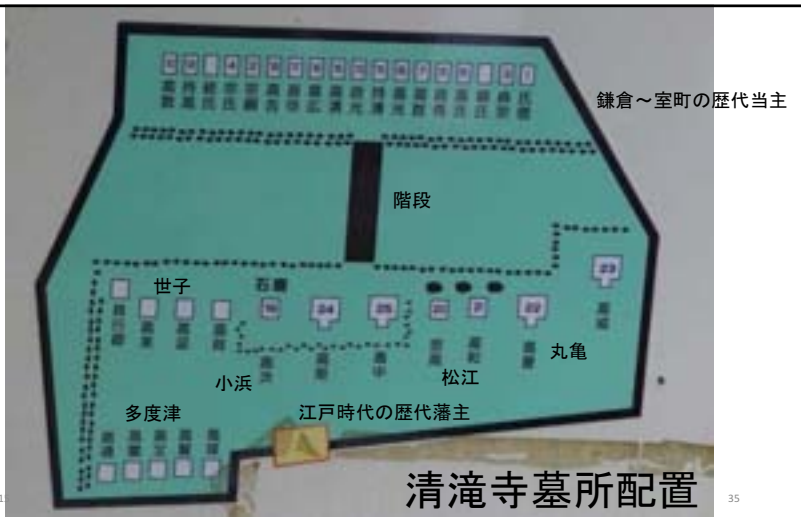
京極高次墓

- 近江大津、若狭小浜と領地が移り、小浜で死去
- 遺言により清滝寺に埋葬か(名門京極家の本貫地)
- 笏谷石(富山産)の石廟(中に墓塔)
- 松江には高次の供養塔(笏谷石)



2018/8/15

36



2018/8/15

35

京極高次墓石廟

- 1間×1間
- 欄間に飛天、右に不動明王、左に毘沙門天
- 霊屋に墓標を納める形は戦国大名墓に既にある
- 霊屋は中世の開山堂から派生



京極高次墓

- 砂岩製宝篋印塔
- 墓塔をぎりぎり覆うように廟高を設計
- 基礎正面にのみ左右の扉形、最下段に格狭間、塔身に金剛界四仏種子、正面のみ線刻蓮華座上月輪を設け、そのうちに刻む。隅飾りは外傾し、二弧で輪郭を巡らす



京極忠高墓・高和墓

- 忠高: 高次の子。小浜より松江に転封。嗣子なし
- 高和: 高次の甥。特別に許され龍野6万石で後を継ぐ
- 霊屋はないが、墓塔規模は変わらない
- 后背の歴代墓と似ており、高次墓の突出性を再認識させる



京極高豊墓・高或墓・高矩墓・高中墓

- 木製霊屋に宝篋印塔
- 高豊墓で藩主墓の最終形態が完成
- 霊屋の復活は整備者であることの反映?
- 以後5代まで同じものが続く

